

Chairperson's Message



Selena Wilson
Canada

巻頭言

世界の若手専門職（YP）メンバーの皆さん、こんにちは!

FIDIC2012 年次総会が9月にソウルで開催され、大成功に終わったことをここに報告でき、うれしく思います。世界中からの100人を越えるYPメンバーが出席し、多くのYPプログラムを楽しむことができました。また世界各国で変化をもたらしている、情熱的で献身的な多くのYPメンバーとの触れ合うことができ感激しました。さらには、各地域のYPグループの発展に尽力し、我々の業界の持続性向上についての知見を共有するためにYPフォーラムで発言した多くのYPメンバーの声を聴くことができ、とても励みになるものでした。今回のニュースレターには、YP会議のハイライトを掲載しています。

持続性という FIDIC2012 年次総会のテーマに従い、持続的開発に関する世界中のニュースを共有しようとする動きが運営委員会の中で見られました。このニュースレターの中でも、湾岸地域における持続的発展のための手法について、運営委員会のメンバーである Wael Darkazanli 氏の記事を紹介しています。

2011/2012 シーズンを振り返ると、YPFSC (YPF 運営委員会) は、前議長である Michele Kruger 氏の精力的なリーダーシップや、全ての委員会メンバーによる献身的な活動に支えられた素晴らしい1年でした。この勢いを引き継いで 2012/2013 シーズンを迎えることができ、非常にわくわくしています。今年のテーマはコミュニケーション&アウトリーチであり、我々は新しいソーシャルメディアの基盤を開拓し、コミュニケーションの多様化に力を注いでいきます。FIDIC は Facebook および Twitter のアカウントを持っているので、是非最新の YPFSC ニュースをチェックしてみてください。

FIDIC のウェブサイトのプラットフォーム新設に伴い、我々はYPフォーラムの Web ページの改良に取り組んでいきます。そしてもちろん、あなた方のYPネットワークの成長および世界中の若手専門職グループの設立に大いに役立つよう尽力していきます。また、今年設立されたヨルダン若手専門職フォーラムの報告ができ、喜ばしく思います。これについては本号の Jomanah 氏の記事をご覧ください。

YPFSC 新議長として、前議長である Dr.Michele Kruger 氏の真摯な働きと過去5年にわたる運営委員会への貢献に、心より感謝の意を表したいと思います。彼女は YPF を飛躍的に発展させてくれました。そして、私もこのコンサルティング業界における、YPF のプレゼンスの継続的な向上に全力で尽くしていきます。また、FIDIC の実行委員と事務局の継続的な支援に対しても感謝を申し上げます。

YPFSC を代表し、このニュースレターがあなた方にとって有意義かつ楽しいものとなるよう心より願っています。ニュースレターに対する感想、コメントや質問がある方は気軽に連絡してください。心より楽しみにしています。

Selena Wilson
FIDIC YPF 運営委員会議長



Simon Davidson
Canada

ソウル 2012 年ヤングプロフェッショナルプログラムー FIDIC 年次総会のハイライト

2012 年 FIDIC 年次総会ヤングプロフェッショナル (YP) プログラムも成功を収めた。ソウルでの総会は、世界中から集まった 100 人以上の YP を未了した。このユニークな機会において、YP は我々の産業界における挑戦と、品質、革新そして持続可能性に主眼が置かれた将来のビジョンを把握する機会を得た。

総会開始前には、60 人の YP が自身のキャリア形成を前進させることを決意し、ヤングプロフェッショナル・マネジメント・トレーニング・プログラム (YPMTP) に参加した。このプログラムにおいて、YP は各々の技術を向上させ、利益を得られるコンサルティング企業を持続させる方法を学んだ。同時に、YPF 運営委員会が開催され、総会の活性化、経営層及びその他の FIDIC 委員会とのアイデア、ビジョンの共有を計った。

交流会とネットワーク形成

YP プログラムは 9 月 9 日 (日) の夜の WIZWIT バーでの交流会から始まった。この活動は、互いを知り、本年の総会テーマについて会話の機会を提供した。この新たなグループは、その後、その他の総会参加者とのネットワーク形成の場となった歓迎レセプションに場所を移した。

9 月 10 日 (月) に、YP は KENCA (韓国コンサルティング・エンジニア協会) 主催のローカル・カラー・ナイトに参加した。ここでは、韓国の食事や文化を満喫した。9 月 11 日 (火) の夕方、YP は技術見学会に参加し、韓国高速道路交通情報センターを訪問した。このツアーは、新たなエンジニアリング上の挑戦に際してどのような革新や組織化を韓国が実施したかを学ぶもので、刺激的なものであった。公式イベントの後、韓国のカラオケバーで歌い、地元のレストランで食事をし、ホテルで語らう事で、YP は新たな人間関係を構築した。



YP Delegates at the Gala Evening

ビジネス・プログラム

初日の社交ネットワークに続いて、YPは9月10日（月）から12日（水）まで開催されたソウル総会に参加する特典を得た。プログラムには10以上のセッションが含まれ、YPは各自の必要に応じて参加するセッションを選択できた。国際的な持続可能性の問題についてのアイデアや考え方の交換を通じて新しい創造的な構想が作られ、自分の国へと持ち帰る事となった。例えば、持続可能性に関する国際的に集約された情報の欠如について、多くのYPがWikiを構築する事で利益を得られる事を提案した。この構想は以前FIDIC理事会からも提案されたもので、YPF運営委員会の助力により遂行中である。YPは傍観者ではなく、総会に貢献し、若手専門職フォーラム（YPF）においても高レベルのセッションを全参加者に対して提案した。



若手専門職フォーラム

総会初日、若手専門職フォーラム（YPF）では世界的規模での持続可能な取り組みに関する4つの提言を行った。

まず、カナダのChee Chan氏は、社会全体に恩恵を与えるような政策決定ツールの開発のため、コンサルティング・エンジニアと権威者がどのように共働することができるかについて発表した。次いで、オーストラリアのDr. Jane Scanlon氏は、インフラプロジェクトの実施に持続性を持たせるためのインセンティブとして、どのようなアプローチが創造され得るかを示した。続いて、スペインでの持続的な鉄道プロジェクトの管理を行ったAlejandro Varón Tischer氏は、持続可能性が日常的なプロジェクトにどのように適応され得るかを示した。

最後に、イランのNader Shokoufi氏とカナダのSimon Davidson氏は今夏に行われたFIDIC YPF運営委員会による国際的調査の結果に基づき、グリーン・プロジェクトへのシフトの傾向を示した。我々の調査結果は多くの人々の考えや注目と一致しており、プロジェクト、本業界での人材育成、そして政策決定者の意識には持続性に対する考慮が欠けており、また法的・財政的なインセンティブが不十分であるという結論を得た。



YPs at the the korean traffic management centre

YPMTP—将来のリーダー育成ワークショップ

翌日、YPMTPは最終日を迎え、参加者はFuture Leader Workshopでの7ヶ月におよぶ議論の結果を発表した。テーマは、「変革の主体」である。プレゼンテーションは非常によく構成され、我々の専門性に直面している最も重要な問題はどのようなものか（エンジニアリングの価値、透明性、社会的な認知、統一性、等）という点について示された。韓国のJi Woon Kang氏は、エンジニアリングの価値を高めることの重要性について説いた。

デンマークのJacob Philipsen氏は、イノベーションの重要性と、代替案の策定の必要性について議論した。彼は、認識を創出し、クリエイティブであり、同僚を促し、そして自分たちの限界に挑戦することによって革新を生み出すことができると述べた。

上記が示されたことで、カナダから参加のJeremy Carkner氏は、全てのYPとシニアマネージャーを「持続可能性のチャンピオン」であるとした。結論としてYPらは、コンサルティング・エンジニアが我々のリーダーとしての役割を果たし、我々のエンジニアリングへの情熱を再燃させ、限界に挑戦しネットワークを通じて仲間に刺激を与えることが必要であると述べた。YPの視点は有益であり、未来および本業界に関する鋭いビジョンを持っていることは、全参加者が確信するところであろう。

本年のYPMTP12に関する更なる情報は、本ニュースレターのMayosoun氏の記事を参照頂きたい。

FIDIC 理事会との朝食

火曜日の朝、YPはFIDIC理事会との朝食に招かれ、FIDICのビジョンとミッションを理解する機会を得た。この特別な機会はFIDICの構想について議論し、YPのビジョンを我々の産業界リーダーに示す良い機会となった。

結論と感謝

結果として、本年の会議はすべての参加者にとって格別なものとなった。豊富な内容と良質のプレゼンテーションによって、全てのYPたちは各国からの大使となった。それぞれの国に帰った後には、同僚たちにその知識を広め、業界のグッドプラクティスを押し進める責任を果たすことになるであろう。

全てのYPを代表して、ここで感謝の意を表したい。KENCAは我々に多大なる支援を与えてくれ、FIDICはこのような質の高い会議を企画してくれ、また我々の先輩方は私たちにその経験を共有してくださった。そして最後に、今年の会議に参加し、YPの声を世界中に届けることを約束してくれたすべてのYPたちに感謝したい。

そして、YPの育成のために絶え間ない尽力をくださったすべてのYP企業に感謝を表し、その他のすべてのFIDIC会員がYPMTPや各地のYPグループ、そして来年のバルセロナでの会議へ参加することを期待したい。



**Mayosoun Dissi
Jordan**

YPMTP 2012

「Young Professional Management Training Program 2012 (YPMTP 2012:若手専門職マネジメント研修プログラム 2012)」で私の仲間と私が共有した貴重な体験を報告できて光栄である。そのプログラムは2011年2月にPodioのフォーラムを利用したバーチャルセッションとしてスタートして2012年8月まで続き、2012年9月の2012年FIDICソウル大会に先立った1週間のソウルでの対面式ワークショップをもって終了した。

そのプログラムにはアジア、アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカおよびオーストラリアを含めた文字通り世界中からのプロフェッショナル・エンジニアにより構成されるチームが参加した。これはそれだけでも貴重な機会である。その研修プログラムは全体のグループを3つのサブグループへ分割することから始まり、Podioと呼ばれる非常に効率的なインターネットベースのフォーラムで各グループがバーチャルセッションを行なった。これらのバーチャルセッションは3~4週ごとに行なわれることになっていた。各セッションではファシリテーターにより提示されたケーススタディについて議論した。そのプログラムで示された事例は、我々がプロフェッショナル・エンジニアとして直面するコンサルティング会社の編成、人事管理、事業開発、財務管理、クライアント関係、リスクマネジメント、持続可能な開発、品質管理、およびビジネス公正管理等の実際のケーススタディを反映したものであった。グループメンバーはCE業界のフレームワークの下、様々な背景を持ち、様々なことを行っていたため、セッションはとりわけ非常に有用であり啓発的なものであった。



YPMTP 12 Young Professionals

バーチャルセッションは素晴らしいものであった。我々全員が対面式の集中的ワークショップに参加するためにソウルで会った時、その経験は新しい異なる次元へと昇華した。8か月間のバーチャルセッションで慣れてきた写真と声に顔がリンクする効果は圧巻であった。3つのグループは最後に集まった。チームメンバーの中で育った調和や不思議な働きがソウルでの非常に有効なコミュニケーションと交渉のセッションに至る主要因となった。ファシリテーターは、CE業界にとって最新で面白いトピックの選定に優れており、実際、彼らの経験から彼らの見解を議論し表現するためのエネルギーを押し上げてくれた。要約すると、ワークショップは対話式で、情報価値があり、活気に満ちたものであった。

私たちがグループとして行わなければならなかった最も挑戦的な演習は、大会中にそのグループによって発表される将来のリーダーワークショップの準備であった。そのプレゼンテーショントピックおよび構成はそのグループにより

決定された。30人以上の専門職を1つのトピックに同意させ、世界中の注目を集める専門職達に対して行われるプレゼンテーションの構成について同意させることは難解であるが興味をそそるものであった。我々全員最初はそれが達成不可能な使命であると考えていた。しかしグループの一人一人がプレゼンテーションを行うだけでなく準備にも貢献したため、その結果は素晴らしいものとなった。

そのプレゼンテーションは、要約すれば3日間の非常に上品で、壮大で、一流の会議の一部であった。また、臨時に開催されたイベントおよび議論は非常に有益で建設的であった。

この傑出した経験を数語で要約することは実に難しい。しかし私は研修プログラムおよび対話型ワークショップ中に得た莫大な利益および並外れた知識を伝えることができたと願っている。私はCE業界の全ての若手専門職がこのプログラムに参加することを心から奨励する。というのはその人が、他のプロフェッショナル・エンジニア達の間で共有し広めるものを多く持って故国へ戻るからである。

最後に、私はFIDIC 2012主催国である韓国ソウルが最も友好的で寛大にもてなしてくれたこと、とても美しい都市、そして驚くほどフレンドリーな人々に感謝したい。





Wael Darkazanli
Saudi Arabia

GCC 地域における持続可能で環境に配慮した建築物

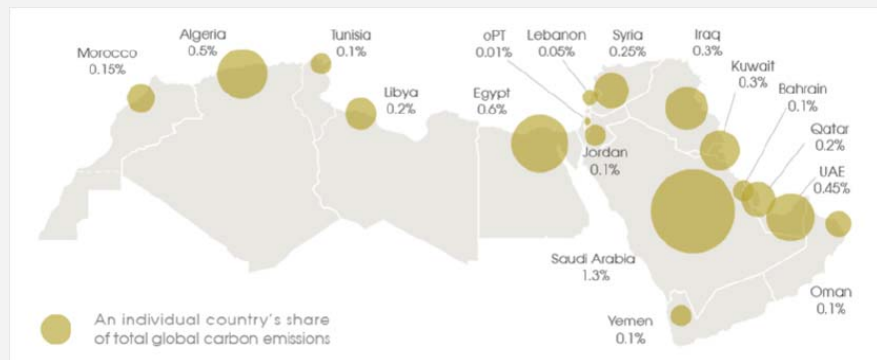
持続可能で環境に配慮した建築物は世界規模の課題となっており、多くの国々では、環境建築物の条件に合った将来ビジョンの設計に多くの時間と努力を費やしている。

世界の多くの地域が経済的に苦しんでいる中で、GCC（Gulf Corporation Council：湾岸協力会議）は、莫大な額がインフラ基盤を開発するために費やされる今なお建設分野が好景気な地域である。

駅や道路、空港などのようなインフラ整備に関する行政の支出は、GCC 諸国においては、サウジアラビアとアラブ首長国連邦（UAE）が上位にいる。

この大規模な開発の中で、持続可能な建築物における世界的なビジョンを満足するための国際的な規格や要件に適合した法整備を通じて、新たなビジョンが提起された。サウジ・ガゼットはリヤドで開催されたサミットにおいて、「サウジアラビアの新しいメガプロジェクトの設計、建設、運転は、エコロジカル・フットプリントと CO₂ 排出量を削減するために、環境アセスメントや持続可能な建築物の方法に従わなければならない。」と述べた。

現在、CO₂ の排出量は、サウジアラビアが世界全体の二酸化炭素排出量の 1.3% であり（中東・北アフリカ地域における排出量の割合として高い）、持続可能性で環境に配慮した建築物の推進は重要課題である。



新しい定義では、所有者または開発者、コンサルタント、そして最終的に請負業者から始まるすべての関係者からの承認を必要としている。そのため、持続可能で環境に配慮した建築物のコンセプト、目標、それらの提供、サイクルに関与し得るため、すべての関係者の間で、この新しい文化（定義）を広めることが重要である。

現在、多くの首脳会談、会議、ワークショップやトレーニングコースが準備されている。主催者の一つである SESAM ビジネスコンサルタントは、この目標を達成するために GCC の地域の多くのイベントを管理し、開催している。

持続可能で環境に配慮した建築物の概念を普及させるため、サウジアラビアは地域で最大の大学の一つである KAUST を設立した。KAUST は、アーキテクト AIA の 2010 年のトップ 10 グリーンビルディングの受賞者として発表された。また、2010 年に KAUST は LEED (Leadership in Energy and Environmental Design: エネルギーと環境に配慮したデザインの評価制度) の認証としてのプラチナ認証を獲得し、世界で最も大きな LEED プラチナプロジェクトを代表している。

コンストラクションウィークオンラインマガジンは、「サウジアラビアが今後 8 年間でアメリカに対して、国内で長期的に持続可能にさせるためにスマートビルディング建設に 390 億ドルを費やす」と伝えている。スマートビルディングは 30%ものエネルギー消費量を節約でき、水の消費量を 50%カットし、建物から出る廃棄物を最大で 90%抑えるという点に関して、研究で明らかにしている。

サウジアラビアと同様に、UAE では持続可能な発展を促進することを目的に、持続可能な建築物における要件に従い 810 億ディルハムを計上する将来計画がなされている。UAE の主流なプロジェクトの 1 つは、アブダビに位置するマスターシティであり、多くのエネルギーがソーラーシステムにより生産されている 6km²のエコシティである。プロジェクトの副所長である Dr Nawal Al Hosany 氏は、「電気と冷却はソーラーパネルによって生み出される」と述べている。

建設費の大型支出に加えて、ドバイでは環境に配慮した路線にそって将来的に成長していくことを確実にしている地方自治体が管理する「Green Building Code」を発表する準備を進めている。

参考資料

http://www.ifpinfo.com/asa/asa-news.php?news_id=1058

<http://www.carboun.com/tag/saudi-arabia/>

<http://www.sesam-uae.com/en/index.asp>

<http://www.sesam-uae.com/greenbuilding/>

<http://www.constructionweekonline.com/article-9324-saudi-to-spend-39bn-on-sustainable-projects/>

<http://www.timeoutdubai.com/aroundtown/features/10443-green-projects-in-dubai#.UJA2J1EY13k/>



Julia Ridsdale-Saw
EFCA
Communication &
Events

EFCA YP グループからの便り

2012 年は、EFCA（European Federation of Engineering Consultancy Associations：ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合）のもとで YP が活発に活動した年だった。第 3 回年間最優秀 EFCA YP コンペには、かなりの割合の女性を含む数多くの立候補があった。年間最優秀 YP は、堤防の管理に関する成功事例ガイドの発行における役割が評価され、オランダの Charlotte Spliethoff 氏が受賞した。Charlotte 氏は、EFCA 年次会議にてその成功事例ガイドを発表した。

私たちは、今年 5 月にポルトガルの美しい都市リスボンで開催された YP フォーラムへの参加者数が、記録的に多かったことを嬉しく思っている。革新的な排水処理プラントの現場見学や社会活動の他、ビジネスネットワーク作りの“合コン”とも言える“ビジネスミキサー”セッションなどに付随して公式プログラムが行われ、フォーラムの期間中には、オランダの専門家 Art Bontekoning 氏が世代や文化的な格差のある人々を集めてインタラクティブなセッションを行った。FIDIC YP プログラムの司会を務めた Alejandro Varón Tischer 氏と、EFCA・FIDIC YP グループ間の連携をより深めるよう企画した EFCA YP 運営委員 Marcin Mikulewicz 氏に改めて感謝したい。

ドイツの Peter Matthes 氏が EFCA の代表として出席した 9 月のソウル FIDIC YP 運営委員会では、EFCA と FIDIC YP の連携の目標がより改善された。この連携の一部は、情報交換や運営委員の相互参加、社会活動や FIDIC YP 調査へのサポート、2013 年バルセロナ大会の準備への協力などにも広がってゆくだろう。この両連盟の運営者や理事会は、このような連携の発展に対し、情報を提供し支援を行っている。

ヨーロッパ YP はここ最近の活動として、活発な YP グループの事例収集と共有を率先して行っている。これは、全ての YP グループの若手エンジニアコンサルタントが、個人的にもプロとしても成長できる機会を提供することを目的としている。



EFCA YP グループのより詳しい情報やニュースレターは、
<http://www.efcanet.org/YPs.aspx>

私たちの LinkedIn-“Young Professionals within EFCA”に参加したい場合は、yp@efca.be にアクセスください。

EFCA は、25 カ国の加盟協会があり、FIDIC ヨーロッパ代表です。



Jomanah Albtoush
Jordan

YPFJ の設立

2008 年以來、過去数年間に及ぶヨルダン若手専門職 (YPJ) による FIDIC YPMTP や会議への参加が、ヨルダンにおける若手専門職フォーラム (YPFJ : Young Professional Forum in Jordan) の設立への原動力となった。

YP コミュニティの活動や価値、影響力を認識することに加えて、職業への貢献と発展を目的とした世界中の会議参加者との対話は、FIDIC における最も貴重な経験であった。若手専門職たちとの対話の中で、彼らが職業の改善や発展に貢献するためにできることに加えて、彼らが達成すべきこと、彼らの技術水準や努力目標、短所、長所などの能力と将来性に関する様々な疑問が湧き出し、盛り上がった。

その結果として、私たちは、自身や価値、能力を信じ、ともに働き、経験と知識を共有し、良好な関係を築き、信念を持ち、国際水準の能力発展に努め、夢やビジョン、戦略、将来への構想を持つことができた場合に限り、これら未解決の疑問に対するすべての答えを導き出せるだろう。そして、私は、YPFJ の設立によってそれらすべてをとりまとめるつもりである。

"集まることで始まり、結束することで進歩があり、そしてともに働くことで成功をもたらす。"

-ヘンリー・フォード

出発点

YPFJ の構想は、ヨルダンから FIDIC YPMPT に参加したメンバーによる数回の会議の実施により、2012 年 2 月に開始された。また、これは、同月にヨルダン/アンマンで開催された FIDIC 理事会にて議論および支援がなされた。

この後、YPJ により、目的、可能となる活動、および、設立過程および実現可能な方法に関するあらゆる関連項目について議論するために、数回の会議が開催された。

YPFJ は、FIDIC 会員協会であるヨルダン設計者・コンサルタント技術者評議会(JACEC)によって設立され、FIDIC 内の若手専門職フォーラム(YPF)の一部として活動していく。

対象集団

YPFJ は、全ての若手専門職が有効に情報伝達および成長するための場所および基盤を提供し、更に、FIDIC の国際的なビジョンおよび慣習に対する意識を拡げ、高めるであろう。

YPFJ はヨルダンにおける全ての若手専門職を対象としており、また周辺国からの全ての若手専門職を歓迎している。

YPFJ は、経験および知識を共有し役立てる全ての FIDIC YPMTP 参加者に加え、あらゆる技術者、建築家、計画者、環境および持続性科学者に開放されている。

目標

以下は初期の目的であり、当然、フォーラムの進展や成長とともに継続的に発展していく。

- ・ 有意義な話し合いと機会を通じた YPs 内でのネットワーク強化
- ・ アイデアの交換、経験や知識の共有
- ・ ” LinkedIn ” の YPFJ グループプロフィールを通じてのオンラインでの議論の提供
- ・ 技術者としての成長と個人の成長
- ・ 我々技術者のイメージの保護と向上
- ・ 関連する出来事の調整と調和
- ・ FIDIC 内での YPF との密接な連携
- ・ 専門職に要求されることと訓練に関する注意と理解の促進、また、国際的な開発と FIDIC での活動の探求
- ・ 無償での働きとチームスピリットの促進

コミュニケーションプラットフォーム

今のところ、本フォーラムは “LinkedIn” で、活発なグループプロフィールを多くの YPs のメンバーに届けており、ネットワークづくりや知識や経験の共有を簡単で強固にし、YPFJ メンバー内での有意義な議論の文化を高めている。

(<http://www.linkedin.com/groups/Young-Professionals-Forum-in-Jordan-4574989>)

私たちは、近い将来に実際の活動に移行すべき多くの野心的な計画とアイデアを持っている。私たちが期待している最初の目標は、フォーラムの公式の発表である。

我々の現在の歩みはまだ小さいが、これらが固められ、継続されていくように、努力していくことを誓う。

Communications
Chairperson
FIDIC YPF Steering
Committee



Selena Wilson
Canada

FIDIC YPF を広げましょう！

皆さんもこの若いダイナミックなグループの一員になって、最新版のニュースレター、イベント（例えば FIDIC 会議とトレーニング機会）に関する情報入手しませんか。

私達 FIDICYPF グループはあなたの国の YPs が何をしているか、そして、彼らとどのように関わっているかを調べています。下記のアドレスから YPF ホームページにアクセスして情報をお寄せ下さい。

登録頂いた方には、ニュースレターやインフォメーションを送付致します。あなたの情報の更新もお忘れなく。

私達と FIDIC に関する情報はこちらから。

<http://www1.fidic.org/resources/young/default.asp>

更に詳しい情報が必要な方や私と直接コンタクトを取りたい方は、下記のアドレスへ直接ご連絡下さい。

fidicypforum@gmail.com

Selena Wilson
FIDIC YPF 運営委員会 議長
コミュニケーション担当責任者

あなたの国でも YPF を作りましょう。

FIDIC YPF と各国の YPFs の活動が気に入ったら、今度はあなたの国の番です。あなたの国の FIDIC 会員協会（MA）を通して、YPF を組織するのが最もよい方法です。しかし、そのような協会が存在しない、あるいは、あなたの国の MA が YPF を持ちたくないならば、あなた自身で YPF を始める方法を一緒に考えるために、私達に連絡を下さい。FIDIC を通して、私達はあなたの国で YPF を組織するために協力します。あなたに必要なのはエンジニアリングに対する熱意だけです！ その熱意からあなた自身であなたの YPF が何を代表するかを決めていきます。何にフォーカスをあてましょう？それは若手専門職のトレーニングでしょうか？若い世代がエンジニアリングに興味を持つようになることでしょうか？それとも仕事仲間を集めた社交界のようなもの？または、これら全てですか？

FIDIC YPF として、私達はあなたの新しい努力を支援するためにできるだけのことをします！

連絡は：fidicypforum@gmail.com

NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

FIDIC YPF News Letter 2012 年 11 月号

下記の方々に翻訳を協力いただきました。
ご多忙の中大変ありがとうございました。

(順不同・敬称略)

矢神 卓也	(株)建設技術研究所
花原 英徳	(株)建設技術研究所
釜瀬 明日香	(株)建設技術研究所
高樋 直人	(株)日水コン
赤坂 和俊	(株)日水コン
浅田 薫永	(株)オリエンタルコンサルタンツ
門司 崇宏	(株)オリエンタルコンサルタンツ
白石 英	(株)オリエンタルコンサルタンツ
手塚 誠	(株)長大
長谷川 正	(株)長大
澤部 純浩	(株)長大
三好 孝明	(株)長大
川本 剛	(株)建設技研インターナショナル
長田 太宗	(株)森村設計
北野 知行	日本工営(株)

取りまとめ
AJCE 技術研修委員会 YP 分科会
担当 北野 知行
日本工営(株)